

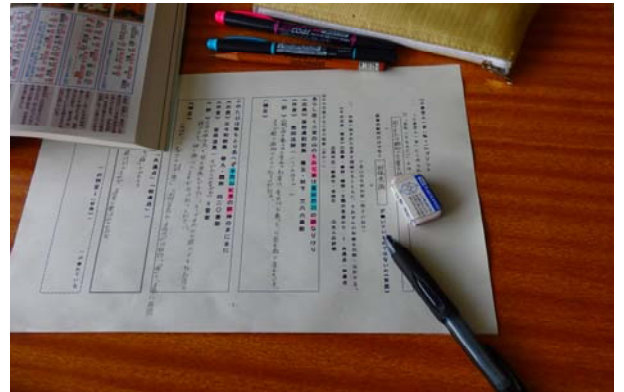
逗葉高校の授業（古典 B） 実施報告

学年末テスト終了後の数時間ですが、「小倉百人一首」の中にある二首を取り上げ、現代語訳を踏まえて比較・分析して、各自でその優劣を判定する「歌合」を学習活動に取り入れた授業を行いました。

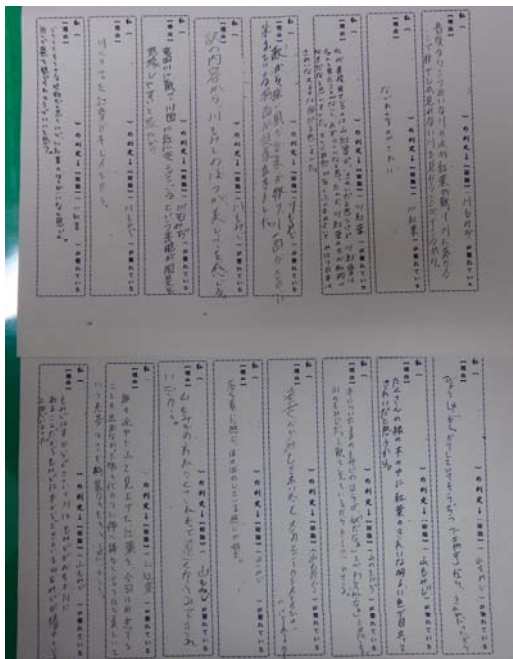
「競技かるた」では「友札（ともふだ）＝決まり字が途中まで一緒の札。」という専門用語がありますが、授業内では「友達」の定義から考え、「(興味・関心や趣味・嗜好が)同じ。似ている。」という点から「短歌内に同一・類似の言葉がある」ということを「友札」とし、二首を一組としました。



【「川もみぢ」と「山もみぢ」の対決】



【生徒が記述したワークシート】



【生徒の判定結果とその理由—もみぢ】

配付されたワークシートは「現代語訳」「比較・分析」「判定」の三つの欄が設けられているものです。

今回は副教材の『国語便覧』を活用して、予習としてノートに百首の短歌とその現代語訳、作者名をノートに転写する予習が課せられました。従って現代語訳についての説明は皆無に等しく、ワークシートの「比較・分析」の作業にあたりました。具体的な視点には「共通点」「相違点」に限定し、全体で情報共有しました。この結果を踏まえて二首の優劣の判定結果とその理由を記述・投票しました。

「川もみぢ（能因法師）」VS「山もみぢ（菅原道真）」

23票 14票

〔欠席者2名：39名クラス〕

第二回戦は、小野小町の「花の色は移りにけりないたづらにわが身世にふるながめせし間に（古今集）」と西園寺公経の「花さそふあらしの庭の雪ならでふりゆくものはわが身なりけり（新勅撰集）」のたいけつです。こちらの投票結果は次の通りでした。

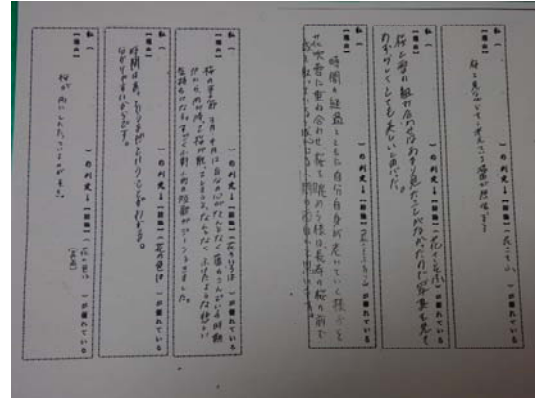
「雨の桜（小野小町）」VS「雪の桜（西園寺公経）」

3 票 7 票

[欠席者1名：11名クラス]

《主な生徒の感想》

- 一首ずつ説明・鑑賞するのではなく、二首をペアにして比較しながら勉強するのはわかりやすい。
- 自分でどちらが良い（優れているか）を判断するのは困ることもあるけれど、楽しいかもしれない。



【生徒の判定結果とその理由—さくら】



【カラー印刷された美しい自然風景】

《主な生徒の感想》

- はじめは「簡単だ!」とおもっていたけれど、やってみるとなかなか手強かった。
- 活字で理解するのと違って新鮮。映像から学ぶこともあるのだということがわかった。
- 写真と文字を結びつけるのはクイズみたいで面白い。取り組みやすかった。
- とにかく考えさせられた。難しかった。

3月最終週の授業では、待望の「歌留多大会」を実施しました。50分の授業でギリギリ全部の読札を授業者が朗詠し、生徒は白熱して取札を競い合いました。

逗葉高校では「古典嫌い」をなくすように、教員主導型の知識習得型だけ授業展開にならないようにと授業改善に取り組んでいます。これからも生徒が「教わる」のではなく自身で「学ぶ（気付く）」ことが出来る授業、「古典」でも生徒参加型でありながら「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導の強化や必要性を追究していく授業を展開していきます。

次に「短歌に詠まれた世界をイメージする」という学習活動を試みました。

具体的には視覚化・映像化することで、本来ならば、生徒各自が短歌に合致した写真を探す授業展開にするべきでしたが、年度末で授業時間が充分確保されなかったため、今回は授業者が既存の写真を用意し、生徒は『小倉百人一首』の中の自然（春夏秋冬）を題材とした約30首と結びつけ、その理由を書くというスタイルをとりました。